



1

表1 市内の被害状況

被害の種別	件数
住宅一部損壊	5件
床下浸水	3件
土砂流出	20件
土砂崩れ	10件
河床のえぐれ	2件
護岸の崩れ	17件
道路の陥没、舗装の剥がれ、石積の崩れ、路肩の崩れ	4件
林道被害	11件
その他（水路・側溝のつまり、倒木、冠水など）	106件
合計	178件

(10月25日時点)

災害が起こったとき、

# 自分の命は、誰が守る？

## 台風第19号の爪痕

10月12日（土）に本州に上陸した台風第19号は、日本各地での記録的な大雨により、堤防が決壊するなど、大きな爪痕を残しました。

市内でも、12日の降水量（232mm）と最大瞬間風速（22・2m）が、どちらも観測史上最多・最大を記録しました。桐生川も、はん濫危険水位を越え、初の「避難準備・高齢者等避難開始」「避難勧告」を発令しました。

この勧告で、市内では2000人を超える人が避難しました。幸いにして人命に関わる被害はなかったものの、床下浸水や道路の陥没などの被害がありました（表1）。

一方で、県内他市では死者が出たほか、建物の全壊など重大な被害が出ています。隣の佐野市や足利市でも、川の堤防決壊や越水による床上・床下浸水、橋の崩落などの被害がありました。

市では、佐野・足利市を支援するため、両毛6市による

「大規模災害時における相互応援に関する協定」に基づき、佐野・足利市からの災害廃棄物の受け入れや収集運搬、被災者への市営住宅提供などを行っています。

## さまざまな災害

近年、毎年のように大きな被害を出す豪雨災害が起きています。しかし、災害は豪雨だけに限りません。東日本大震災、熊本地震などの、地震による災害も多発しています。このような大規模な災害が次に「いつ」「どこで」発生するかわかりません。そのため、日頃から災害に備えておくことが重要です。

## 防災の考え方

皆さんは防災に関する「自助」「共助」「公助」という言葉を聞いたことはありませんか。

「自助」は、自分の命は自分で守るということです。「共助」は、地域住民やボラ



4



2



5



3

1. 梅田町一丁目（金沢上流）で土砂流出／2. 避難所の様子（境野小学校）／3. 佐野市への職員派遣（ごみ分別作業）／4. 佐野市での災害廃棄物の収集運搬（清掃センターからの支援）／5. 足利市からの災害廃棄物の受け入れ

ンティアなどが力をあわせることで、「公助」は、国・県・市町村などが、個人や地域では解決できない問題を解決することです。

災害発生時に大事なものは、まず「自助」です。「自助」で足りないものを「共助」で補い、「共助」では難しい部分を「公助」がサポートするというのが防災の基本的な考え方だといわれています。

平成7（1995）年の阪神・淡路大震災では、家族も含む「自助」で約67パーセント、近隣住民などの「共助」で約31パーセントの人が救出され、「公助」である自衛隊などにも満たなかったという調査結果があります。

## インタビュー

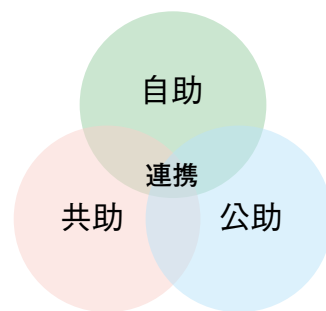
### 市と連携し、住民が安心して避難できるようにしたい。

台風前日から、自主防災会の役員などを通して地区全体に避難準備を呼びかけました。12日は避難所を開設後、すぐに避難者が集まり始め、協力して誘導や物資の配布を行いました。日頃の備えの成果が発揮できた点もありましたが、課題もあったため、避難所開設・運営に関するマニュアルについて、今後は関係機関と共同で作成したいと感じました。また地区の被害状況を、11月に行われた「かわうち文化祭」で展示したところ、多くの住民から反響があり、防災意識の向上につながったと感じています。



うち文化祭」で展示したところ、多くの住民から反響があり、防災意識の向上につながったと感じています。

第16区自主防災会会長  
田村光市さん（川内町五丁目）



つまり、消防隊や自衛隊が来るのを待つ前に、自分たちで助けられる命は自分たちで

### 命を守る行動を

助ける、自分の命は自分で守る、という意識と行動が多く命を守るのです。

台風第19号に関するメディアの報道などでは、「命を守る行動を」という言葉が繰り返し使われていました。

災害が起きたときに、自分の命を守る行動をとれるよう、まずは自宅のできる準備、今からできる準備を行います。

# 災害に備える

## 事前の準備

「災害は自分の身に起こる」と想像することが大事です。自分事として捉え、できることから始めましょう。



安全安心課 星主任

### 01

#### ハザードマップを確認。

昨年、各家庭に配布したハザードマップでは、住む地域の危険な場所や避難場所などを確認することができます。地震や土砂災害、洪水など、災害の種類によって避難場所が異なる地域もあります。



お持ちでない人は、市役所4階の土木課、3階の安全安心課へ！

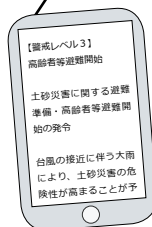
### 02

#### 桐生ふれあいメールに登録。



アクセス集中で市ホームページが見られない場合でも、必要な情報が携帯電話にメールで届きます。まだ登録していない人は、ぜひ登録しましょう。

URL : <https://service.sugumail.com/kiryu/member/>



防災ラジオもおすすめ！

### 03



#### 持ち出し品や備蓄品を準備。

避難を想定し、非常食や水、毛布、救急医薬品などの非常持ち出し品を準備しましょう。持ち出せる量を、両手が自由になるリュックタイプに入れるのがおすすめです。また、家庭における食料や水などの備蓄品は、最低でも3日分程度を目安に、可能であれば一週間分を備えましょう。

#### インタビュー

#### 日頃から「避難時は何を持っていく？」と家族で話しています。

防災士の資格を持ち、災害に備えています。避難する際、我が家では各自のリュックに衣類や日用品などを入れ、大容量のバッグに全員の寝袋、雨具、毛布、救急セット、食料と水、保険証などを入れて持ちます。



加藤さんご一家と非常持ち出し品

慣れない避難所でもなるべくリラックスできるように、いつも使っているものを用意するように話しています。

加藤正幸さん  
(広沢町七丁目)

# 災害が迫ってきたら 早めに行動

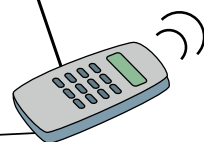


問い合わせは、安全安心課防災係（☎内線 415）、桐生ふれあいメールについては、広報課シティブランディング推進担当（☎内線 507）へ。

## 01

### まずは、情報収集。

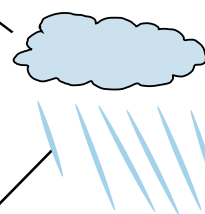
気象情報や避難情報に注意しましょう。情報を得る手段としておすすめなのがテレビのデータ放送です。自宅にテレビがあれば、誰でもリモコンのdボタンを押すだけで最新の情報を取得できます。市ホームページや桐生ふれあいメール、防災ラジオなどでも情報を伝達します。



## 02

### 余裕をもって、避難。

自宅が土砂災害警戒区域や浸水想定区域に該当している人は、その区域外の、親類や知人宅などの安全で安心できる場所へ避難しましょう。近くにそういった場所を確保できない人のために、市でも自主避難所や指定避難所を開設します。



## 大雪や凍結にもご注意ください

本格的な冬が来る前に、大雪に備えて、各家庭で早めの準備をお願いします。降雪時は、不要不急の外出を控えましょう。

問い合わせは、安全安心課防災係（☎内線 415）または土木課維持係（☎内線 619）へ。

### 停電に備える

降雪時には倒木や雪の重みで電線が切れ、停電になるおそれがあります。停電が長期化するおそれもありますので、食料や水のほかに、カセットコンロ、電気に頼らない暖房器具などの準備をしておきましょう。

### 運転するとき

- ・ 早めに冬用タイヤに交換しましょう。タイヤの溝の深さやバッテリーの状態など、車両の点検をしましょう。
- ・ 急ハンドルや急ブレーキを避け、車間距離を十分にとるなど普段以上に安全運転を心掛けましょう。

### 雪解け後も注意を

雪解けが始まると、朝晩の冷え込みで路面が凍結し、滑りやすくなります。特に道路

上の白線部は、乾いているように見えても薄い氷の膜ができて滑りやすくなっているのので、転倒に注意しましょう。外出の際は、いつもより歩幅を小さくして、時間にゆとりをもって行動しましょう。

### 除雪車での除雪作業にご協力を

- ・ 優先除雪区間を定めて除雪を行います。優先除雪区間については、群馬県桐生土木事務所のホームページで確認できます。
- ・ 効率的な除雪作業を行うために、通行止め規制を実施する場合があります。
- ・ 通勤や通学時間に間に合わせるため、深夜、早朝の除雪作業をすることがあります。
- ・ 除雪車からは皆さんが見えないことがあり、大変危険ですので、近づかないでください。